

「グローバル内部監査基準」 から見た内部監査の高度化

※ このスライドは発表者の個人的な見解であり、
内部監査人協会の公式な立場を代表するものではありません。



一般社団法人日本内部監査協会
The Institute of Internal Auditors
Japan

慶長 祐子

2025年2月19日（水）

金融庁「金融機関の内部監査高度化に関する懇談会」

内部監査の目的

内部監査は、取締役会及び経営管理者に、独立にして、リスク・ベースで、かつ客観的なアシュアランス、助言、インサイト及びフォーサイトを提供することによって、組織体が価値を創造、保全、維持する能力を高める。

内部監査は、組織体の以下の事項や機能を強化する。

- 目標の成功裏な達成
- ガバナンス、リスク・マネジメント及びコントロールの各プロセス
- 意思決定及び監督
- ステークホルダーからの評判と信頼性
- 公共の利益に資する能力

5つのドメイン（領域）

III. ガバナンス

- ❖ 原則6：取締役会による承認
- ❖ 原則7：独立した位置付け
- ❖ 原則8：取締役会による監督

IV. 内部監査部門の管理

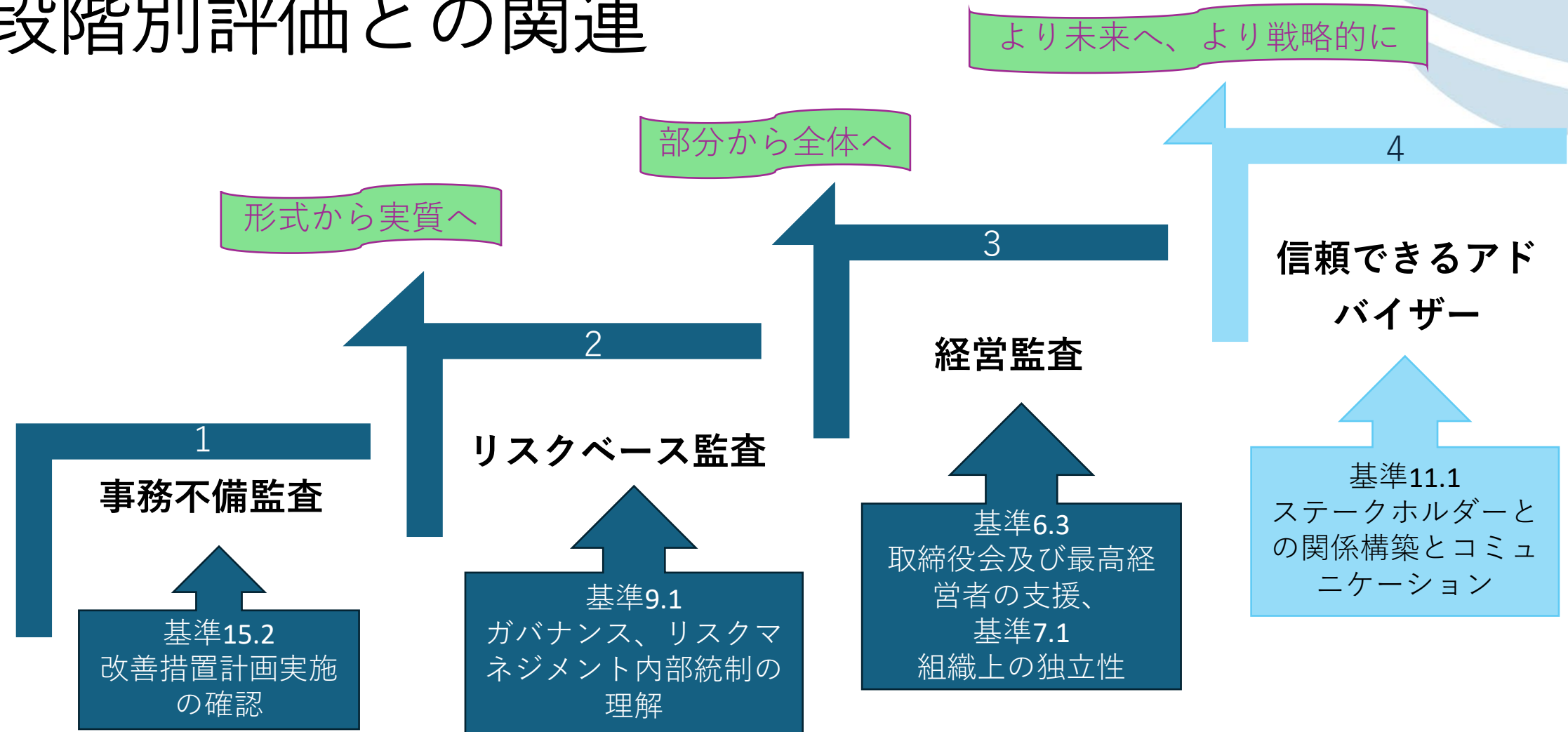
- ❖ 原則9：戦略的な計画策定
- ❖ 原則10：監査資源の管理
- ❖ 原則11：効果的なコミュニケーション
- ❖ 原則12：品質の向上



V. 内部監査業務の実施

- ❖ 原則13：個々の内部監査業務の計画と効果的な策定
- ❖ 原則14：個々の内部監査業務の実施
- ❖ 原則15：個々の内部監査業務の結論のコミュニケーション及び改善措置の計画の実施のモニタリング

グローバル内部監査基準 段階別評価との関連



グローバル内部監査基準 3つの論点との関連

経営陣や監査委員、監査役による内部監査部門への支援

□ドメインⅢ. ガバナンス

- 内部監査基本規定の取締役会による承認
- 内部監査部門の経営会議等への参加
- 孤立しない独立性の確保

内部監査部門の高度化に向けた取組

□ドメインⅣ. 内部監査業務の管理

- 監査スタッフのスキルアップと資格者の増加
- リスクアセスメントの高度化
- データ分析
- 品質評価

被監査部門に対する内部監査への理解、浸透やリスクオーナーシップの醸成

□ドメインⅣ. 内部監査部門の管理

- 戦略的コミュニケーション
- 内部監査の方針と計画の共有
- 第2線や他の保証提供者との連携と依拠
- アドバイザリーの利用



更なる考慮点

企業価値との連結

内部監査を企業価値の創造、保全、維持に結び付けることで、内部監査の役割と戦略的位置付けが明確になる。

取締役会の関与の明確化

監査役、監査委員との関係のみでなく、取締役会と内部監査との関係を明確化することにより、内部監査の権限がより確立される。また、難しい問題を迅速に組織全体で解決することにつながる。

独立性の強調

孤立しない独立性を確保することは、経営側の圧力があっても制限なく監査し、問題点や課題を客観的かつ迅速に報告することにつながる。

3線体制の説明

内部監査の高度化は、第1線、第2線にてリスクを管理する体制がなければ達成されない。

参考文献

グローバル内部監査基準

内部監査人協会（IIA）

[global-internal-audit-standards-japanese2.pdf](https://www.iaa.org/global-internal-audit-standards-japanese2.pdf)

価値創造に貢献する内部監査 ～戦略に貢献する内部監査への進化と提言～

公益財団法人 日本内部監査研究所

<https://jiarf.org/wp/wp-content/uploads/2024/07/4e7d5f7cccdb4258cc6f0a3337857dd8.pdf>

